

みんなで防ごう土砂災害

6月は土砂災害防止月間、防災対策強調月間
6月1日(水)～7日(火)はかけ崩れ防災週間

梅雨や台風の季節を迎え、大雨による土砂災害に備えるため、県と市では毎年この時期にパトロールを行い、土砂災害危険箇所などの点検、周辺住民への周知、啓発活動を行っています。

土砂災害から身を守るため、防災情報を正しく理解し、避難経路、避難場所をあらかじめ確認するなどの「日頃の備え」と、雨量情報や前兆現象などに注意して「早めの避難」を心がけてください。

雨量情報に注意

降水量が1時間に20ミリ以上、または降り始めてからの連続雨量が100ミリを超えた場合は十分な注意が必要です。

★次のホームページで、雨量情報等が確認できます。

○西条市雨量情報 <http://www.i-sensor.com/pv/saijyo/>

○愛媛県河川・砂防情報システム
<http://kasensabo.pref.ehime.jp/dosha/>

○リアルタイム川の防災情報(国土交通省)
<http://www.river.go.jp/>

携帯電話用 <http://i.river.go.jp/>



県や市による事業

急傾斜地の崩壊やがけ崩れなどから生命・財産を守るため、県や市では次の補助制度を実施しています。

■急傾斜地崩壊対策事業(実施主体:愛媛県)

採択条件:①がけ崩れによって著しい被害を受ける恐れのある人家が、おおむね10戸以上②がけの高さが10m以上③がけの傾斜度が30度以上④移転適地がないこと

負担割合:国・県98.2%、市1.8%、受益者0%

■がけ崩れ防災対策事業(実施主体:西条市)

採択条件:①自然がけ②がけの高さが5m以上③がけの傾斜度が30度以上

負担割合:県60%、市27.5%、受益者12.5%

土砂災害の前兆現象

土石流



- ・山鳴りがする
 - ・雨が降り続けているのに川の水位が下がる
 - ・川の流れがにごり、流木が混ざりはじめる
- 特徴:谷や斜面にたまった土・砂・石などが、集中豪雨などの大量の水とまじり合って一気に流れ出てくる。

地すべり



- ・地面にひび割れができる
 - ・沢や井戸の水がにごる
 - ・斜面から水が吹き出す
- 特徴:比較的緩やかな斜面において、粘土などのすべりやすい層を境に、その地面がズルズル動き出す。

がけ崩れ



- ・がけからの水がにごる
 - ・がけにひびが入る
 - ・小石がパラパラ落ちてくる
- 特徴:地面にしみこんだ水分が土の抵抗力を弱め、斜面が突然崩れ落ちる。

土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域を指定しています

土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域は、土砂災害防止法に基づいて、危険の周知、警戒避難体制の整備、住宅等の新規立地の抑制など、土砂災害の対策を推進する区域です。

これらの区域は地元説明会などを経て愛媛県が指定しており、今年は新たに22箇所(計58箇所)が指定されました。

指定された区域の図面は、市庁舎別館河川課で閲覧できるほか、県と市のホームページでも公開しています。

問合せ 市庁舎別館河川課 河川係 TEL0897-52-1543

集中豪雨には日頃から準備を!

集中豪雨が起きた際、素早く対応するためには日頃からの準備が重要です。自らの身を自ら守るため、普段から次のようなことに心がけ、準備・確認をしましょう。

- 1 住んでいる地域で過去に水害、土砂災害があったか確認
- 2 いざというときの避難場所、避難経路の確認
- 3 非常時に持ち出す荷物の準備
- 4 テレビやラジオにより最新の天気予報を確認
- 5 万一災害が大きくなった場合には、隣近所助け合って避難
- 6 自宅から一番近い土のう用の砂置き場(消防本部が市内各所に配置)を確認 ※右表参照

問合せ 消防本部警防課 TEL0897-55-5119

砂の配置場所を確認しておいてください

▼市内の水防用砂置き場一覧表

地区	砂置き場	地区	砂置き場
東予	旧吉井幼稚園地内南側	西条	東消防署
	中城公園地内東側 (東予総合支所北側)		福武新田児童遊園の東側
	吉岡分団第1部詰所横		J A 西条大町支所の東側
	吉岡分団第3部詰所横		玉津分団蔵置所
	吉岡小学校 プール跡地内東側		飯岡分団蔵置所
	三芳分団第1部詰所横		神戸分団蔵置所
小松	旦之上水防倉庫横	丹原	禎瑞分団蔵置所
	西消防署		丹原総合支所東側駐車場(駐車場の東側)
	黒谷集会所 南方の空き地		光下田蔵置所
	小松水防倉庫横		田野上方水防倉庫横
	石根水防倉庫前		北田野水防倉庫横
			石経水防倉庫横
	関屋水防倉庫横		
	鞍瀬小学校跡地 入口西側		